

平成 27 年産 紀南の梅産地情報

2015/07/21

「今年産の生育概況」

1. 今年の南高の開花は、2月上中旬にかけて低温が続いた影響で、満開は2月20～21日と平年より7日程度遅くなった。4月に入り長雨・日照不足が続き生育への影響が心配されたが、収穫前の定点着果量調査では、前年よりやや少なく、平年並みとなった。

出荷は、小梅は5月12日から、古城は5月15日、南高は5月28日から始まったが、5月下旬の高温乾燥により、実肥りは悪いまま生育が早くなり、各品種とも前倒しでの出荷となった。

6月に入ると降雨もあり肥大は回復に向かったものの、前進出荷の影響が大きく生産量は思ったほど伸びなかった。

また本年は、4月上中旬にかけての多雨・強風の影響でかいよう病や黒点病の発生、6月からの降雨の影響で早い段階からスズ斑症が発生し秀品率を低下させた。

2. 生産量は、小梅は前年より多くなったものの、平年に比べ少なくなった。古城・南高では前年・平年より少なくなった。

7/21日時点（生産見込量：ト）

品 種	27年産	26年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	791	715	891	111%	89%
古 城	541	688	871	79%	62%
南 高	21,163	27,226	23,819	78%	89%
在来系	370	592	648	63%	57%

3. JA紀南の安全・安心対策は、13年目に入り全出荷者の生産履歴の回収と安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析自主検査、適正農業規範(GAP)の点検を実施した。

「産地の課題と方向」

近年予想を上回る気象変動が頻発する中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることは勿論のこと、南高梅に偏りすぎた経営から、梅に軸足を置いた複合経営への転換への誘導が重要課題となる。